

大泉一貫の学問的系譜と業績

若干の自己紹介 農業分析と経営学

1, 専門

農業経営学

2, 農業経営学は、農政に翻弄される特徴を持っている。

日本の農政は、食糧法、農地法、農協法を中心とした体系

これらは、国が定めた食糧生産計画に沿って生産し、耕作するものに農地を与え、農家以外の者が耕作することを禁じ、農家の販売や営農指導は農協が担当する、という国家統制的、計画経済を旨としている。

3, 私は、「経営者の創意工夫」が基本となるべきと主張していた。

80年代後半から90年代前半にかけて、

『農業経営の組織と管理』、『農業が元気になるための本』、『一点突破で元気農業』等を出版。

「一貫塾」等で考えを普及、

88年ふるさと創生活動(竹下内閣) 農村における地域おこし活動、農村に新たな風が吹き始めていた。

しかし、私の学説は当時の農業経済学会の中では異端であったらと思う。

4, さらに90年代半ばから農政改革に関与しはじめる。

経営学から農政への接近95年以降

4, 90年代半ばから農政改革に関与しはじめる。

農業基本法改正(95年から00年) →「食料・農業・農村基本法」
農業基本法(1961年)小倉武一ら改革は官僚によって進められた。
「神棚に奉られてしまった法律」(大泉)不幸な法律

95年9月「農業基本法に関する研究会」 荏開津典生座長

98年6月「食料・農業・農村基本問題調査会」専門委員 木村尚三郎座長、

98年4月「農林水産政策情報センター」大河原太一郎主任研究員 三会堂ビル9F

99年法制定2000年施行

「市場原理の導入、自由な経営の展開」を入れた(21条,22条)

5, 同時にNHKラジオ「フレッシュ・トーク」等で農業問題・環境問題・食糧問題を解説

NHKラジオセンター21世紀プロジェクト委員(95-00年)

NHKラジオ深夜便 暮らしの言葉担当(01-03年)

NHK国際放送グリーンチャンネル レギュラー(02-04年)

6, 日本の農業政策を考えるようになる

03年 農水省 食料・農業・農村審議会 専門委員

06年 内閣府 規制改革会議 地域経済・農業部会専門委員

07年 内閣府 経済財政諮問会議 EPA・農業ワーキング委員

09年 内閣官房 農政改革関係閣僚会合特命チーム アドバイザー

10年 内閣官房 食と農林漁業の再生実現会議 委員

13年 内閣官房 産業競争力会議農業分科会有識者

私の学問の源流

学の系譜→金沢夏樹の弟子、経済学徒ではなく、経営学徒であった

1, 金沢夏樹(1921年-2010年) 東京大学農学第一講座 4代目教授

★第一講座の初代教授は横井時敬

★金沢夏樹の師は、東畑精一と古島敏雄

2, 横井時敬(1860年- 1927年) 農村自営業者の系譜

那須皓、磯辺秀俊、和田照男

3, 東畑精一(1899年-1983年) 知識創造、イノベーションの系譜

4, 私の学問源流は、金沢を通して、

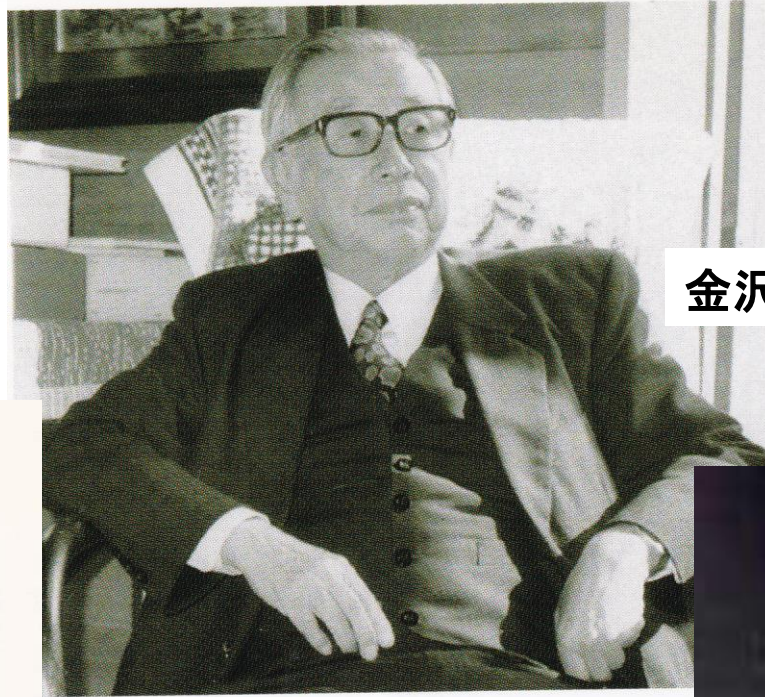
①横井時敬の「農村自営業者」の系譜、

②東畑の「イノベーション」の系譜、にある。

この系譜は、ともに国家統制的な農政の対極にある。

また、古島の現場重視主義は、農業経営研究のベースになっている。

私の学問の源流



金沢夏樹 (1921年-2010年)

金沢 夏樹
松田藤四郎 [編著]



横井時敬 (1860年- 1927年)

古稀記念誌の金沢先生
ご自宅の書斎で



東畑精一 (1899年-1983年)

江戸時代から続く我が国の地域経済には、経営者がいた。我が国の伝統・土着の姿だ。

- 1, (江戸から明治)農村には多様な業の事業者・農村自営業者が存在。百姓とよばれていた。
網野善彦、能登の時国家、回船問屋の百姓、綿を耕作しながら木綿工業、半農半漁の網元
年貢を納める義務を負うものはすべて百姓で、造り酒屋や藍染め屋などを営みながらも、
それらの基盤として農業・稲作を行っていた。
- 2, 「老農」の代表としての横井時敬
 - ①在村耕作地主(生産的地主)、精農家、老農、地方産業家、名望家、農村自営業者
1870年代後半全国各地で種子交換会、農談会、農事会など農業技術の交流を行なう
1881年(明治14年)全国農談会開催。「大日本農会」設立、横井と前田正名が中心、
群馬県の船津伝次平、奈良県の中村直三、香川県の奈良専二、福岡県の林遠里、
秋田県の石川理紀之助 農家数550万戸弱、在村地主120万戸
 - ②系統農会 94年「大日本農会」が、第1回「全国農事大会」を開催し「系統農会」の結成決議
三会堂ビル 地租を支払って明治政府を支えた人々
- 3, 明治壬申戸籍に見る百姓＝農人への読み替え、78%が農家
 - ①『百姓』は全人口の8割弱を占める。＝農人と読み替え＝農家が全人口の78%
 - ②しかし網野善彦によると、全人口の2割強が都市居住者、8割が農村居住者
8割の内半分強(52%)が、農村自営業者＋農村副業 農業者
百姓の残り半分(48%)が田畑における穀物の生産を生業とするもの
 - ③農村自営業者が農業以外の多様な業を担いながら地域経済を支えていた。
それが明治になっても比較的自由に農業を行うことができ、技術指導を担うなど
イノベーターとして機能した。

農村自営業者の消滅

国家統制的農政の登場

大正時代、米騒動や、小作争議が過熱し、国家の土台を揺るがす事態。
⇒国家統制の下に農業をおくが、この国家統制的なシステムを「40年体制」と呼んでいる。
(堺屋太一、野口悠紀雄)

国家統制であるが故に政府が農業の企業者になる。

政府にinnovationを期待。しかしriskをとらない企業家とは何か？

東畑精一は、こうした状態を「**農業に経営なし、企業者は政府で農家は単なる業主**」と分析(東畑精一『日本農業の展開過程』1936年)、その構造がいまだに続いている。

東畑精一(1899年～1983年) ボン大でシュンペーターに学ぶ。

東畑の系譜は、一橋の経済学・経営学の系譜と交差している。

中山伊知郎、塩野谷祐一、上田貞治郎、増地庸治郎、藻利重隆

近年では、野中郁次郎、伊丹敬之へ

★Joseph A. Schumpeter(塩野谷祐一・東畑精一監訳)

『経済発展の理論—企業者利潤・資本・信用・利子および景気の回転に関する一研究
上・下』(岩波文庫)(1977年)

★Joseph A. Schumpeter(中山伊知郎・東畑精一監訳)

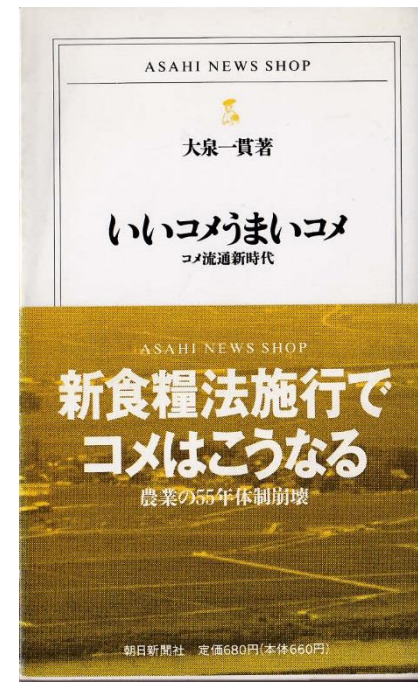
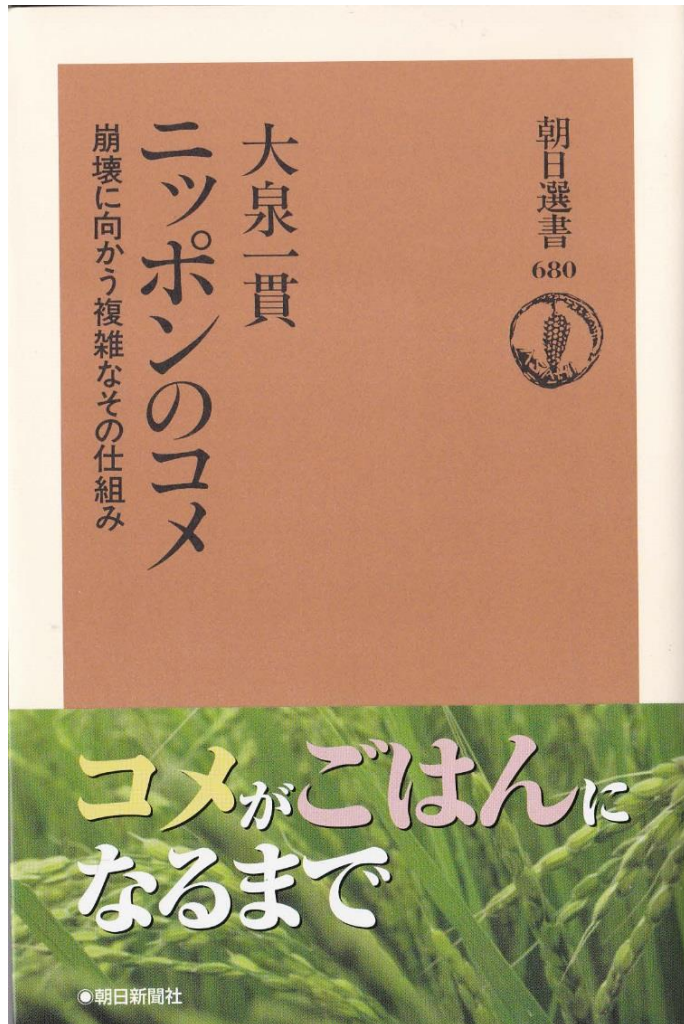
『資本主義・社会主義・民主主義』上中下(1962年)

★東畑精一 『日本資本主義の形成者—さまざまな経済主体』(岩波新書)(1964)

コメ政策への言及

コメ政策への言及

- 1, 東大の農業研究の三羽がらす
経済学部 大内力 (農業経済学)(1918-2009)
文学部 福武直 (農村社会学)(1917-1989)
農学部 金沢夏樹(農業経営学)
大内、金沢、福武著「日本の農業」東大出版会
(1964)(1970)
- 2, 佐伯尚美(東京大学経済学部長)(1929-)
大内力の弟子で、大内のあとの東大教授
佐伯のコメ関係の三弟子
松島正博(大阪市立大学教授)
吉田俊幸(高崎経済大学学長)
- 3, 私の水田農業論は、
金沢の稲作農業のロジック
(これは古島の影響大)と
佐伯のコメ政策論の両方
に源流がある。



「農村自営業者の系譜」と「農業イノベーションの系譜」をベースとした 農業経営ロジックの構築

- I 元気農業論の提唱 機関車農家論 一貫塾の実践
- II 農業の成長産業論の提唱
- III 融合産業論
- IV コメ政策、水田農業の構造改革の提案
- V 農業経営を核とした農政展開の提唱
- VI あるべき農協像の提案
- VII 世界の英知を復興へプロジェクトの実践